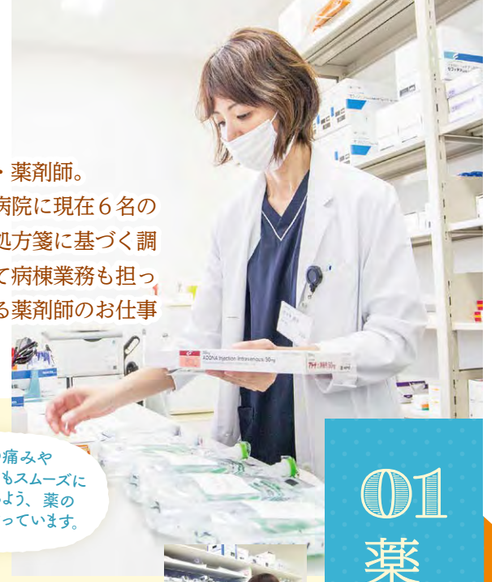
ようそろお仕事図鑑 VOL.7 薬剤師

01 薬のスペシャリスト

幅広い専門知識を軸に、医師の処方箋に基づく調剤業務全般を担っています。

幅広い知識で診療を支える 薬剤師

医薬品全般を司るスペシャリスト・薬剤師。五省会では西能病院、西能みなみ病院に現在６名の薬剤師が勤務しています。医師の処方箋に基づく調剤のほか、チーム医療の一員として病棟業務も担っています。今回はその多岐にわたる薬剤師のお仕事をご紹介します！



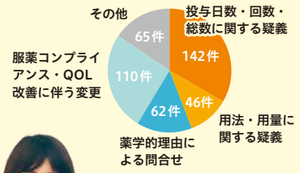
疑義照会
スピーディで丁寧な対応を

調剤薬局から外来患者さんの処方箋の疑問点・不明点について問合せが来た場合、処方箋を出した医師へ確認を行い、返答します。

Pick Up

疑義照会をスムーズにするため、問合せ内容の現状把握調査を行いました。関係各所との連携を大切にし、カルテに明確な記載をするなど工夫を重ねています！

●疑義照会分類の結果
令和３年４～９月、西能クリニック



主任 佐々木 陽子さん

患者さんをお待たせしないよう迅速に対応します！

坂井 亜美さん

術後の痛みや体調変化にもスムーズに対応できるよう、薬の別包化も行っています。

調剤業務 薬の調合 注射薬の調剤

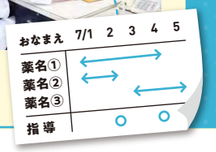
医師が出した処方箋をもとに飲み合わせ、量、服用方法など一人ひとりに適した形で調剤します。注射薬の場合は投与量、経路、速度、期間なども細かくチェック。薬袋に氏名・薬名を印字する、点滴薬にラベルを貼る、患者さんが飲みやすいよう薬を一包化するなどで誤飲・誤投与を防止しています。

持参薬鑑別
入院時にチェック

患者さんの服用薬を預かり、どんな薬を飲んでいるか服用方法などを調べ、電子カルテに入力します。他職種へ持病の情報を共有できます。

薬歴管理
PC・タブレットに集約

入院患者さんの薬物療法の情報を集約・管理します。患者さんの服用薬が日ごとに一目でわかるため、医師や看護師からの問合せにもすぐ対応でき、薬局内でも情報共有できます。



影の立役者！ Respect!

調剤業務補助員をご存知ですか？

調剤業務の補助のほか、ピッキング業務、請求業務、医薬品の管理など、法律で定められた範囲内で多忙な薬剤師のサポートを行っています。薬局にとって、なくてはならない存在です。

薬品の流通状況などもこまめにチェックし、薬剤師の皆さんに逐一報告するよう心がけています。

原 恵梨子さん

西能みなみ病院では…

患者さんに適した服用方法を提案！

療養型病院である西能みなみ病院では、高齢で飲み込む力が弱い患者さんに対して、水で溶かしたり粉砕して出す場合があります。薬によっては粉砕してはいけないもの、溶かし方に工夫が必要なものもあるので、注意が必要です。

谷口 啓子さん

リーダー 清水 利保さん

飲みにくさを感じる場合は、医療スタッフや薬剤師にご相談ください。

02 チーム医療の一員として

病棟では薬物療法の観点から診療に携わり、他職種の医療スタッフと連携を図りながら患者さんのサポートを行っています。

薬歴管理（P.2）が役立ちます。

ドクター回診
病棟をまわり患者さんの声を聞く

医師、看護師らとともに担当薬剤師が同行。平日は毎日入院患者さんの元を巡回し診療します。患者さんの訴えに耳を傾け、薬物療法の提案に役立てます。

例
患者：便秘で…
医師：原因（副作用）として考えられる薬は？
薬剤師：薬歴を確認！ ○○です
→ 薬の変更の提案や、対処法を医師が患者さんにお伝えします

チームの一員として 委員会活動

西能病院では6つの委員会とチームに参加しています！

医師、看護師、その他の医療スタッフとともに専門スキルを持ち寄り、綿密な連携を取りながらより良質な医療提供を目指しています。

プラスαの専門資格でチームに貢献！

薬剤師資格に加えて、より高度な専門性をもつさまざまな資格を取得し、活動に活かしています。

骨粗鬆症マネージャー

薬は、骨粗鬆症の予防と治療の要となります。医師へ最適な薬剤の提案をすること、患者さんへは薬の服用を続ける重要性を丁寧に伝えることを心がけています。

NST（栄養サポートチーム）専門療法士

薬剤により摂食嚥下障害が起こる可能性もあるため、嚥下障害や食欲不振について検証します。静脈栄養療法に用いられる輸液は医薬品のため、静脈栄養の処方設計にも関わります。

スポーツファーマシスト

カターレ富山のチームドクター・橋口津医師からの依頼で、選手が服用する薬のドーピング違反検証に対応しています。サプリメントやのど飴等でも違反となるケースがあるため、見逃さないよう注意しています。今後は未来ある地域の子供たちにも啓蒙活動を行いたいです！

多職種チームで診療計画を作成 入院時支援カンファレンス

最良な診療体制で入院患者さんを迎えます！

渡辺 恵美さん

高齢の方や特定疾患がある方など支援が必要だと思われる患者さんの診療情報（家庭環境や食事形態、薬の管理や飲み方など）を看護師、管理栄養士らと共有します。

03 患者さんに寄り添う

患者さんが薬を正しく服用できるよう、一人ひとりに合わせた形で様々なアドバイスを行います。

入院時支援外来 安心安全な手術のために

入院前に現在の服用薬について聞き取りし、手術の前後に中止すべき薬はないか確認。リスクのある薬を服用しないよう丁寧に説明します。

例 手術前に血液がサラサラになる薬を中止する…など。サプリメントも種類によっては服用NGとなる場合あり。必ず申告を！

与薬カートセット
患者さんの飲み忘れ、誤飲を防止

薬を自己管理するのが困難な入院患者さんに対し、与薬カートに１回分ずつ薬をセットしています。

確実に飲んでいただけるよう患者さんの顔を思い浮かべながら…

服薬説明 良き相談相手に

入院患者さんが薬を正しく服用できるよう薬の効果・副作用、注意点などを直接お伝えします。薬に関する不安など相談にも応じます。薬が効いているか、正しく飲めているか、また副作用が出ていないか確認する場でもあります。

2022年度の服薬指導は2,202件
服用する薬が変わる際には、必ずご説明します！

毎朝ミーティングを行い、薬局内での情報共有も大切にしています。

「手術後痛みがないのに痛み止めの薬は必要？」「痛み止めをこんなに飲み続けても大丈夫？」などの相談が多いです。